

《後半PDの進め方》

出口 敦

- ・ご執筆頂いた章（節）やご講演の中で触れて頂いた地域社会、基礎自治体が直面する縮退（人口減少、高齢化、等）と持続への課題、コロナを契機とした課題に現在の都市計画法制は対応できているか（役にたっているか）、いないとしたら都市計画法制はどのように転換していくべきなのか、についてさらに理解を深めるために、以下の問いについてお考えをお聞かせ頂きたい。

【Q1：具体的都市計画法制について】

まず、①現在の都市計画法の枠組みの下で、その基本構造（プランとそれを実現する手法）に係る重点課題とその課題の対応のために都市計画法制が変わるべき具体的な点、もしくは方向性について、お考えをお聞かせ頂きたい。

特に、市町村、都道府県の都市計画行政の立場の方々を意識したご提案など。

- ・特に、本書では、都市計画の基本構造について、対象都市が目指す将来像を示すプランと、事業や規制といったその実現手法とで構成される構造としている。

日本の都市計画が抱える課題と構造転換して向かうべき方向性を考える場合、

- ①都市計画法制定50年の延長上にある方向性（枠組みの下での方向性）
- ②都市計画法の枠組みの外にある国土計画の体系などを含めて長期的展望を見据えた方向性があるだろう。

【Q2：「マネジメント」について】

本書の副題は「整・開・保からマネジメントまで」としてあります。本日午前の第4弾シンポジウムでは、地区スケールにおける「マネジメント」（＝ミクロ的マネジメント）の議論をして頂きました。

本シンポジウムでは、市町村スケール、もしくは広域圏スケールにおける「マネジメント」（＝マクロ的マネジメント）の概念も重要なポイントと思います。地方自治制度にも関わる問題でもあり、国で議論されている地域管理構想とも深く関係すると思います。

ミクロ的マネジメントは、第4弾でも議論されましたが、マクロ的マネジメントは、まだ不明瞭な点があると思います。みなさまの考えられる広域的なマネジメント（マクロ的マネジメント）とはどのようなものなのでしょうか？

あるいは、どのような視点が重要でしょうか？

また、ミクロ的マネジメントとマクロ的マネジメントの関係はどのように考えればよいのでしょうか？

さらには、それはどのように制度化されるべきなのでしょうか？

【Q3：長期的な将来展望】

次に、②都市計画法の枠組みの外にある国土計画の体系などを含めて結構ですので、わが国の長期的展望を見据えたプランと実現手法の基本構造が向かうべき（制度上の）方向性について、お考えをお聞かせ頂きたい。

《都市計画の構造転換に向けた方向性》 PDのまとめにかえて（出口敦）

1) 都市の価値の見直しに基づくプランと

価値を計る指標の意味と評価方法の見直しに基づく実現手法へ

①都市計画の基本理念（健康で文化的な生活）の現代的意味の見直しと 都市・地域の価値の見直し

- 例えば、郊外住宅地の価値の見直し：
ベッドタウン→自立した生活の営みを包括した地域へ
- 生活領域（生活圏）のプランの制度上の位置づけへ

②プランとその実現手法をつなぐ指標と指標の意味の捉え方の見直し

- 人口フレーム方式による一括管理手法の再考
- 「（人口）密度」の意味と捉え方の見直し：
（従来）都市施設・サービスの維持＋（新）地域の空間の内実を考慮する
- 地域を多角的に評価する指標の導入

③土地利用計画の実現手法の考え方とガバナンスの見直し

- 従来の規制による実現から、緑地（農地）を含めた良質な土地利用や、維持すべき市街地の評価（格付け）と評価に基づく維持管理手法の担保へ

2) 「広域的・マクロ的マネジメント」の5つの方向性

①MPのプランニングのプロセスの見直し

- 全体（都市構造）と部分（地域）の関係のロジックの見直し
- 「全体→部分」の思考から「部分⇄全体」インタラクションへ
- 部分（地域別構想）の変化に対応した機動的まちづくりへの対応

②部分最適解と全体最適解の整合

- 部分最適解の集合を全体最適解につなげる部分の「効用」による誘導

③サイバー空間・データ駆動型手法の活用

- 個人便益の最大化から社会便益の最大化に向けたスマートシティへ
- データ活用のマルチサイクル化とデータ管理の上手な官民連携へ
（エビデンスに基づく長期サイクルと
データに基づくリアルタイム・短期サイクルの各役割の明確化）

④国土の均衡ある発展→5地域区分では捉えられない環境、防災の観点からの実効性のある国土利用計画としての「土地管理」制度の導入へ

⑤一体的・包括的な土地利用行政

- 都市と農地間の土地利用の問題の顕在化への対応の必要性和
5地域区分による限界の認識→都市農村計画の指向へ